

梅雨の日

作詞 J'Soul (浅羽一)

三日目の今日も雨が降ってる 梅雨の雲は飽きることなく雨を降らす
テレビではどのチャンネルも昨日の洪水で 流された街を映している
家の瓦礫や流される車 行方不明者は何百人
家族や助けを求めて泣く人が映っても どこか映画のよう^{リアリティ}でいまいち現実感がない
どこか冷めた目で画面を見てる ある梅雨の日の一時

出掛ける時は傘を差していく 梅雨の雨は傘を差しても身体を濡らす
街では人々は皆下を向いて足早に 昼なのに暗い街を歩いてる
はねる泥や広い水たまり 腹を減らした野良犬も雨宿り
コンビニの前に辿り着いて周りを見ても いつも座ってる若者の姿も見えない
誰もいないどこか淋しい道 ある梅雨の日の一瞬

コンビニの客は僕一人だけ レジの人は挨拶もなく無愛想
安い弁当とコーヒーを買って外に出る 濡れたポケットにお釣りを入れる
傘を差して来た道に戻っていく 足を出すたびに小銭が鳴く
体中濡れてしまっているのにいつまでも傘を差す 無意味な事と分かっているけど傘を畳めない
優柔不断の僕が悲しい ある梅雨の日の一幕

遠くの街ではこの雨は 人に恐怖と絶望を与えているよ
僕の街ではこの雨は 人のやる気と明るさを吸い取っているよ
そして僕にはこの雨は いつもは忘れていた僕の嫌なトコを見せつける

ある梅雨の日の一時

暑い梅雨の日の一時